

「平成29年度に実施した仕事」の振り返りシート

記入日 平成30年 3月 30日

仕事の内容	認知症高齢者等居場所お知らせサービス事業			
担当部署・課長名	高齢介護	課	高齢福祉	係 課長名 伊野宮 崇

この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。

【施策】 高齢者保健福祉の推進

(総合計画書 51 ページ)

予算名	款 3 民生費	項 1 社会福祉費	目 3 老人福祉費	事業 4 高齢者日常生活支援事業	
1 この 仕事 の 目的	① 誰(何)を対象にしていますか。 市の区域内に居住し、住民基本台帳に記録されている者で、次に掲げる要件を備えている者を同居して介護している者：① 65歳以上の認知症高齢者又は40歳以上65歳未満の初老期における認知症と診断された者②徘徊行動のある者*但し、市長が特に必要と認められた者も対象者とすることができる。			① ①の対象数や量を、あらわすもの(対象指標)	
	→ 不明				
	② ①をどのような状態にしたいのですか。[簡潔に] 居場所お知らせサービス事業を実施することにより、徘徊行動のある高齢者等の身体の安全の確保及び当該高齢者等を介護している家族等の介護の負担の軽減を図り、もって高齢者等及び介護者の福祉の推進に寄与する。			② ②の状態になった数・量をあらわすもの(成果指標)	
	→ 利用者数				
③ そのために何をしましたか。 市民から利用希望があった場合、担当区域の高齢者ほっと支援センターの相談員が自宅訪問により、状況確認する。同センターからの申請代行を受けて、市が内容確認し、承諾の可否を決定する。決定後、介護者に対し、探索専用端末機器を貸与する。			③ ③をどのくらい行いましたか(活動指標)		
→ 利用者数					

		単位	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度目標	平成31年度目標
2 指標 の 推移	対象指標	①の数値	人	不明	不明	不明	
	成果指標	②の数値	人	3	5	8	
	目 標	②の目標値					
		目標値設定の考え方					
活動指標	③の数値	人	3	5	8		

3 経費	事業費(実績)		円	25,920	37,044	67,716	※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。 人件費(再任用職員以外) 年間単価は、8,253,000円 時間単価は、4,200円 で計算してください。 【算出根拠】平成28年度決算数値。(退職手当組合負担金、共済費も含む。)
	財源	一般財源	円	17,420	24,244	36,616	
		特定財源	円	8,500	12,800	31,100	
		(うち受益者負担)	円	8,500	12,800	31,100	
	人件費(目安)	所要人数(再任用以外)	人	0.05	0.05	0.05	
		所要人数(再任用)	人	0	0	0.0	
		職員人件費(再任用以外)	円	411,650	413,350	412,650	
職員人件費(再任用)	円	0	0				
事業費+人件費		円	437,570	450,394	480,366		

この仕事における市の裁量 市の裁量は大きい

4 環 境 変 化	この仕事の開始時期(開始年度)、何を目的に開始していますか。 平成13年9月1日から施行。介護者の負担軽減を図り、もって高齢者等及び介護者の福祉の増進に寄与することを目的としている。	
	開始当初と比較し、状況の変化はありますか。 高齢化に伴い、認知症高齢者も増えており、徘徊行動のある高齢者も増加傾向にある。毎年、市内でも行方不明高齢者が発生し、発見・保護されるケースがあり、件数は微増である。	

5 市 民 等 の 意 見	この仕事に関して、平成29年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について 特になし	

仕 事 の 内 容	認知症高齢者等居場所お知らせサービス事業				
担当部署・課長名	高齢介護	課	高齢福祉	係	課長名 伊野宮 崇

6 市民協働	(1)市民協働の取組を行いましたか。ある場合は、取組手法の種類から番号を選択しご記入ください。(複数回答可)			
	取り組みは無い	取組手法	【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換(広報媒体:) ⑦後援・場の提供 ⑧その他()	
(2)平成30年度に向け、さらに適した協働の形態とするために「考え」「気付いた」点をご記入ください。				
7 課 題	(1)平成28年度の課題についての解決に向けた取組や、事務改善など、平成29年度に実施したことをご記入ください。			
	利用しやすいGPS機能を持った機器導入を検討中である。			
(2)この仕事を振り返り、課題をご記入ください。				
探索端末専用機器を身に付けて外出することが難しい認知症高齢者にとっては、利用しづらいものとなっている。				
8 今 後 の 方 向 性	(1)仕事の方向性(「7 課題(2)」を踏まえた具体的な改革・改善案など) 認知症高齢者が探索端末専用機器を身に付けて外出することが難しい場合が多いため、利用しやすいGPS機能を持った機器導入を模索する必要がある。			
	(2)上記(1)の改革・改善案を実現するために、克服すべき問題点、必要な調整・準備等を具体的にご記入ください。			
	他市の状況を参考にし、経費面も勘案した上で、現機器に代わる利用しやすい機器の情報収集に努める。			
(3)改革・改善案による期待成果 上記(1)の改革・改善案を実施することで、成果面と経費面で現状からどのように変わりますか。				
成果	成果を向上させる。		経費	仕事の経費は維持する。